

科目名	国際協力実践演習 I	担当教員	東智美・大嶋英一
科目属性	専門科目群 F	単位数	2単位(面接 0.5 単位)
<p>【授業概要】</p> <p>国際協力の実践に関心を持つ受講生が、自己の活動に照らし合わせながら行う演習である。演習 I では、受講生が実践している現場での状況を報告し、それをもとに演習を行うことを想定しているが、過去の行った活動やこれから行う活動を想定して取り組んでも構わない。また、ここでの「国際協力」は、海外における開発援助活動に限らず、国内における国際理解教育活動やボランティア活動なども含むものとする。具体的には、第一に、取り組もうとする課題をめぐって対象の国・地域の現状を分析し、問題解決のための手段の検討を行い、活動の目的を整理する。第二に、実際に活動に従事する中で、当初の活動計画と現状との間にどのような違いがあり、その違いはなぜ生じたのかを分析する。第三に、現場で遭遇した問題の概要などについて報告するとともに、計画の修正を行う。スクーリングの前半では、これらの分析や報告をもとに、活動をより意義深いものにする方途や、問題を克服するためにどうしたらよいかなどについて議論する。後半では、事例を通じて国際協力の課題を考察し、国際協力を理解するための理論を学ぶ。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自らが実践する活動の課題の背景・現状・課題を理解する。 2. 活動計画と現状のギャップを分析し、活動に反映させることができるようになる。 3. 開発協力の意義と課題についての考察を深める。 <p>【授業計画】</p> <p>活動を実施しながら、取り組む課題についての分析を行い、活動の目的を明確化し、課題を抽出する。活動実践のなかで行なった調査・分析をレポートにまとめる(第 1~10 回)。レポートの内容に基づき、スクーリングにおいてプレゼンテーションを行い、受講生・教員で議論を行う(第 11~14 回)。またスクーリングでは、開発協力の事例から課題を考え、国際協力を理解するための理論も学ぶ。スクーリングの終了後、科目修得試験(レポート形式)に臨む。</p> <p>第 1 回 現状を知る(1) 活動地域・分野の概要：活動する地域・分野の基礎データ・基礎文献を調査し、抱える課題を把握する</p> <p>第 2 回 現状を知る(2) 配属先の現状：配属先の事業内容、組織体制、援助受け入れ実績、ニーズを把握する</p> <p>第 3 回 活動計画準備(1) 関係者分析：誰がどのように活動に関わっているのか？</p> <p>第 4 回 活動計画準備(2) 問題分析：何が問題か？</p> <p>第 5 回 活動計画準備(3) 目的分析：目的が解決された状態はどのようなものか？</p> <p>第 6 回 活動計画準備(4) アプローチの選択：どのように目的の達成を目指すか？</p> <p>第 7 回 活動計画準備(5) 指標の設定：どのように目的の達成の有無を評価するか？</p> <p>第 8 回 モニタリング：計画と現状の間にはどのようなギャップがあるか？</p> <p>第 9 回 中間評価：これまでの活動で目的はどの程度達成されたか？どのような課題があるか？</p> <p>第 10 回 報告(1)：これまで考察した内容に基づくレポート作成</p> <p>第 11 回 報告(2)：レポートに基づくプレゼンテーション</p>			

第12回 ディスカッション：課題・改善策に関する議論

第13回 ケース・スタディ（1）：経済援助の課題

第14回 ケース・スタディ（2）：社会開発の課題

第15回 活動計画の修正

【評価方法】

評価は、スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、「科目修得試験」（50%）の割合で行います。

【教科書】

- 佐原隆幸・徳永達己『国際協力アクティブ・ラーニングワークでつかむグローバルキャリア』（弘文堂、2016年）

【参考図書】

- 中田豊一『ボランティア未来論：私が気づけば社会が変わる』（コモンズ、2000年）
- NPO法人アークス編『国際協力プロジェクト評価』（国際開発ジャーナル社、2003年）